

「人口減少社会の中で大分が生き残る方法」②

日本は島国。国境は海岸線で確定的だ。主要四島も近接しており、面積もそこそこ大きな国を形成するのに適当な広さだ。現在人口1億人を超える国は、世界約200ヶ国の中では極めて上位少数だ。1位から並べると、中国13.8億、インド13.1億、アメリカ3.2億、インドネシア2.6億、ブラジル2.1億、パキスタン1.9億、ナイジェリア1.8億、バングラデシュ1.6億、ロシア1.4億、メキシコ1.3億、日本1.3億、フィリピン1.1億、エチオピア1億、ベトナム0.9億、エジプト0.9億といった状況。日本はメキシコと並んで、世界で10番目、上位0.5%の人口を抱える。世界的には大国の部類だ。

北海道は隣国に近く、歴史的にも防衛の厚みを必要としてきた地域だ。この国の都が近畿や関東に置かれてきたのも、このような事実とも無縁ではないだろう。隣国から簡単に近付ける位置に都を置く訳にはいかない。また、細長い列島で都と地方の連絡や権勢を確保するにも、列島中央地域に都を置く必要があった。今も三大都市がこの地域にある事は、十分な地政学的必然性がある。またこの三大都市には国内最大級の平野が開けている。

なぜ日本最大の都市は東京になったのか。まず日本最初の統一政権は近畿に誕生した。それまでも日本各地に地方政権が散在していたが、やはり列島中央地域であり、山の守りと、平野の富と、大陸や国内各地への海路の便を兼ね備えた近畿が統一政権最適地となったのだろう。その後、濃尾平野勢力を後盾とした天武天皇の時代に、天皇權威、文字、宗教、歴史、法律、統治機構が統一が始まり日本の骨格が整った。その後、宮廷権威と、武力政権の分離が始まり、武力政権は関東に拠点を求め始めた。宮廷権威に近過ぎると、取り込まれてしまいがちだったからだ。江戸時代は超長期安定政権で、江戸は当時でも世界最大の都市に成長した。東京も現在世界最大の都市である。

日本中探しても、地政学的条件と、それ故の歴史的な積み重ねで、東京と比肩できる地域は何処にも無い。だからこそ東京は日本のあらゆる資源が一極集中してしまうのだ。逆に言うと、欧州や中国やアメリカなどで、地方に多極化しているのは、比肩できる地域が並び立っているからだ。

このままでは、どんなに逆立ちしても東京一極集中の流れは止まらず、むしろ加速していくだろう。これまでの条件の良さだけでなく、戦後70年間の平和と自民党の長期政権による社会の安定と、産業構造の変化で人口集中が相乗効果を高めるサービス産業が圧倒的主力となってきたからだ。

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebook アドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会 事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net